

子育て世代(小学生期)対象プログラム展開例(45～60分)

## かわいい子には体験を！ ～人生の基盤となる体験活動のススメ～

☆プログラムのねらい

<p>子どもの頃の体験が豊かなほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力など資質やが高い傾向にあることを知り、体験活動の充実のために家庭でできることを考える。</p>		
時間	進め方	準備物等
導入 10分	<p><b>アイスブレイク</b></p> <p>① 指導者の自己紹介などから始めて場を和らげ、温かい雰囲気を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの頃に体験したことで、自分の子どもにも体験させたいこととその理由などを自己紹介の項目としてもよい。</li> </ul> <p>② 4人程度のグループをつくる。</p> <p>＜ルールとマナーを確認する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的に参加しましょう。</li> <li>● 一人一人の考えや思いを尊重しましょう。</li> </ul>	アイスブレイク集の中から
展開 30～45分	<p><b>ワーク1</b></p> <p>① エピソードを読み、共感したこと、疑問に思ったこと、悩みなど、自由に書かせる。</p> <p>② グループ内で書いたことを出し合って、互いの感想を知り、テーマについての関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具をそろえたり、持ち物の準備などを考えると面倒だな。</li> <li>子どもは興味があるようだけど、時間があれば寝ていたいのが本音。</li> </ul> <p><b>まめ知識①・②</b></p> <p>① 子どもの頃の体験と、様々な資質・能力とは相関関係がある。ただし、同値ではないことに留意する。(補助資料参照)</p> <p>② 子どもの頃の自然体験が、若い世代ほど少ない傾向にあり、大人が意図的にその機会を作ることの重要性を確認する。</p> <p><b>ワーク2</b></p> <p>① 「家庭における体験活動の取組として…」も参考にしながら、させてみたい活動の計画を立てる。実行するために、しなければならないことや疑問点や問題点があればそれも記入する。</p> <p>② グループ内で情報交換し、アドバイスやヒントを得て、計画を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、ファシリテーターからも助言する。</li> </ul>	ワークシート  補助資料
まとめ 5分	<p><b>ふりかえり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムをとおして考えたことを各自書かせ、感想などを発表させる。</li> <li>国公立青少年社会教育施設案内のリーフレットのほか、各市町村の施設案内、タイムリーな主催事業の募集チラシ等を配布する。</li> <li>レイチェル・カーソンの著書『センス・オブ・ワンダー』の一節「“知る”ことは“感じる”ことの半分も重要ではない」を紹介する。</li> </ul> <p>※ 計画は子どもと一緒に立てる。親がお膳立てすると子どもは興味を失う。</p> <p>※ 体験後は、折に触れて話題にし、家族で共有する。</p> <p>※ 最初から完璧を求めない。足りないものがあつたり、途中でトラブルが発生したりしても、そのことで工夫や協力が生まれ、子どもは成長する。</p> <p>※ 構えなくても、素材は身近なところにある。できることから始める。</p> <p>＜ルールとマナーを確認する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座で知り得た個人情報以外へ持ち出さないようにしましょう。</li> </ul>	国公立青少年社会教育施設案内リーフレット 主催事業募集チラシ等

※ 時間は必要に応じて調整してください。

「かわいい子には体験を！」補助資料（ファシリテーター手持ち）

**まめ知識①・②「子どもの体験活動の実態に関する調査」**

独立行政法人青少年教育機構が、平成22年に子どもの頃の体験（A自然体験、B動植物とのかかわり、C友達との遊び、D地域活動、E家族行事、F家事手伝い）と、様々な資質・能力（ア自尊感情、イ共生感、ウ意欲・関心、エ規範意識、オ職業意識、カ人間関係能力、キ文化的作法・教養）との相関関係について調査したものである。

**まめ知識①**

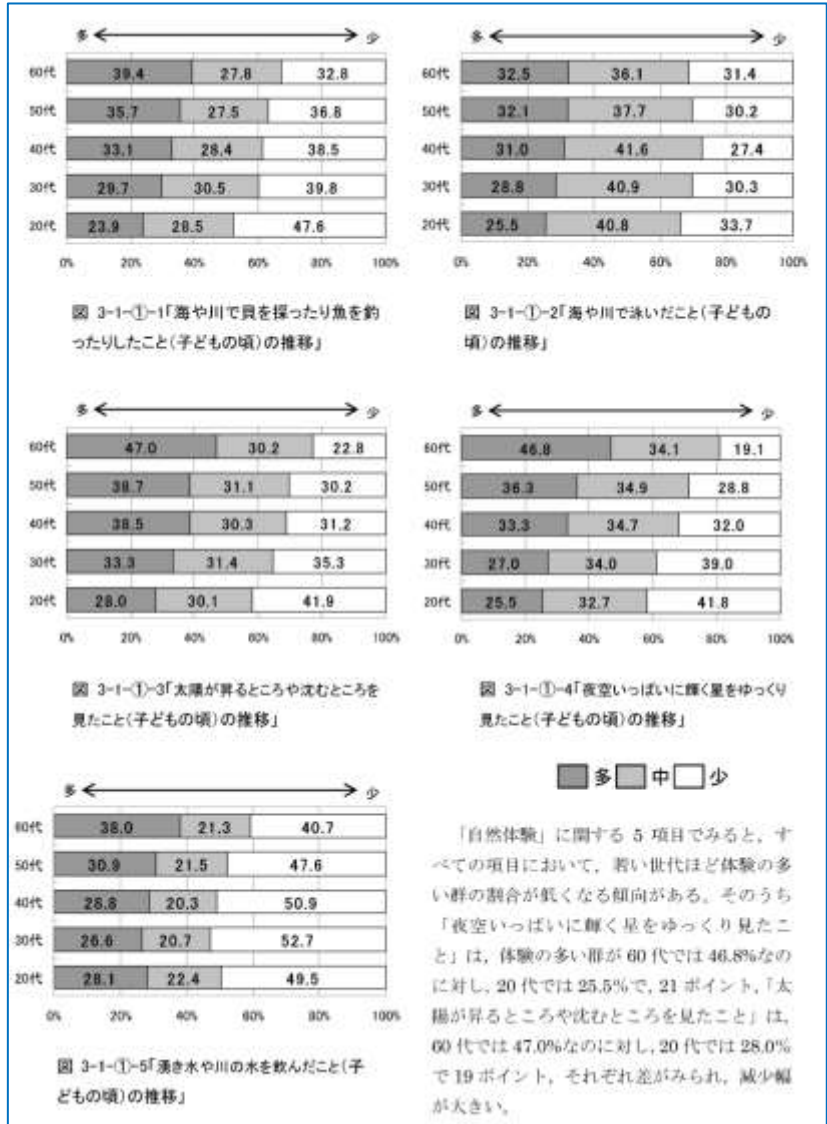
この調査により、子どもの頃の体験が豊かであると、意欲・関心や規範意識が高い人が多い、傾向にある」などの相関関係があることが明らかにされた。

ただし、**体験が少ない人でも意欲・関心や規範意識が高い人もいること、心理学的には、現在の感情が肯定的であると、過去の記憶や感情も肯定的になる傾向があることも踏まえ、「子どもの頃の体験が豊かであると、意欲・関心や規範意識が高い人が多い、高い傾向にある。」**のであって、「**子どもの頃の体験が豊かであると、意欲・関心や規範意識が高い**」という誤解がないよう留意する。

**まめ知識②**

自然体験に関する調査は5項目。(右グラフ参照)全項目とも若い世代ほど、体験の多い群の割合が減っている。

以前は、体験の機会を求めなくても、それは生活の場の中に豊富にあったが、現在では、自然環境が大きく異なっているため、**大人が意図的にその機会を作ることの重要性を確認する。**



**『センス・オブ・ワンダー』**

この本の著者レイチェル・ルイーザ・カーソンは、(1907年5月27日 - 1964年4月14日)、1962年に著書『沈黙の春』で農薬や化学物質による環境汚染や破壊の実体に、いち早く警笛を鳴らしたアメリカの海洋生物学者。

『沈黙の春』は、アメリカにおいて半年間で50万部も売り上げ、後のアースデイや1972年の国連人間環境会議のきっかけとなり、人類史上において、環境問題そのものに人々の目を向けさせ、環境保護運動の始まりとなった。没後1980年に、当時のアメリカ合衆国大統領であったジミー・カーターから大統領自由勲章の授与を受けた。

『センス・オブ・ワンダー』は、このレイチェル・カーソンが姪の息子ロジャーとの自然体験をもとに書かれており、「大人の役割は、知識を与えることではなく、喜び、感激、神秘などを子どもと一緒に再発見し、感動を分かち合うことである。」幼児期からの自然との関わりの大切さや大人の関わり方などについて説いた本である。

～以下、本文から引用～

子どもの頃は誰もが豊かに持っている「感じるころ」。大人たちは誰もが「子どもたちに豊かに育ってほしい」と言います。でも、大人たちは、子どもたちと感動を分かち合うようにしているのでしょうか。人工物に夢中になって自然から遠ざかったり、自然に触れても知識を身につけることに気をとられ「感じる」ことをしなくなっているのではないのでしょうか。

・・・大切なのは、まず「感じるころ」を育み、輝かせること。

そのために、美しさ、神秘さにあふれる自然に入ってみよう・・・。